



第12回 日本小児理学療法学会学術大会 in 愛知 市民公開講座（**無料**・**オンライン**開催）

ご自宅で
視聴できます

2025年 12月 21日（日） 9:00 – 11:30

カナダ発：家族と一緒につくるこども支援の新しいかたち
「できる」から広がる こどもと家族の未来

講師：CanChild スタッフ、当事者、家族

障がいのある子どもや若者が、周りの人と一緒に活動を楽しみ、力を発揮できることを大切にする支援の考え方「F-words」などをご紹介します。

F-words は、家族・楽しさ・友だち・できる活動・身体の元気さ・将来の6つの視点から、子どもの「できること」に光を当てる枠組みです。

本講演では、子どもの「できる」に注目する理由、家族と専門職が協力するための支援方法、実際の家族の体験をわかりやすくお伝えします。

**ご家族様、ご当事者様、そして療育支援や教育にかかわる
皆様のご参加を心よりお待ちしております**

【オンライン配信・事前登録制】

QRコードまたはURLより登録ください。

URL: <https://jsppt-12th.org/citizen/>

【お問い合わせ】

事務局：株式会社 DIO AGENCY

TEL: 052-784-4220

E-mail: jsppt-12th@jsppt-12th.org



登録はこちら

【講演内容】

障害のある子どもや若者も、日常の生活の中でさまざまな活動に参加し、成長する機会が大切です。

CanChild の研究は、「できないこと」ではなく「できること」に目を向けることで、家族と専門職が協力して、前向きにより良い支援ができることを示してきました。その考え方を分かりやすくまとめたのが F-words (家族・楽しさ・友だち・できる活動・身体の元気さ・将来) です。

WHO の ICF を、家庭や現場で使いやすい形に落とし込んだもので、世界中で子どもや家族の支援の道しるべとして活用されています。

また CanChild では、家族と一緒に使えるツール(活用できる道具)も開発してきました。「About My Child」は、子どもの強みと必要な支援を整理できるツール、「ENVISAGE」は、親同士がつながり、前向きな視点や自信を育むプログラムです。

これらに共通する中心的な考え方は“家族と専門職のパートナーシップ”です。子どもと家族にとって意味のある目標を一緒に考え、子どもが力を発揮できる環境を共につくることを大切にしています。

本講演では、F-words の考え方や研究で分かってきたこと、家族の体験を紹介します。「できること」に目を向け、協力しながら支援することで、すべての子どもがいろいろな活動を楽しみ安心して過ごせるコミュニティ(地域社会)を育むことができます。

【CanChild について】

CanChild はカナダのマクマスター大学にある、子どもと家族のための研究センターです。35年以上にわたり、家族と協力しながら、日常で使いやすいツールや科学的根拠に基づく情報を発信してきました。

研究者・臨床家・家族・地域が協力し、世界中と連携しながら、子どもと家族への支援をより良くする取り組みを続けています。

